

九州の身近なデータを
ワンポイント解説する
コーナーです。

DATA in 九州

今月の注目データ

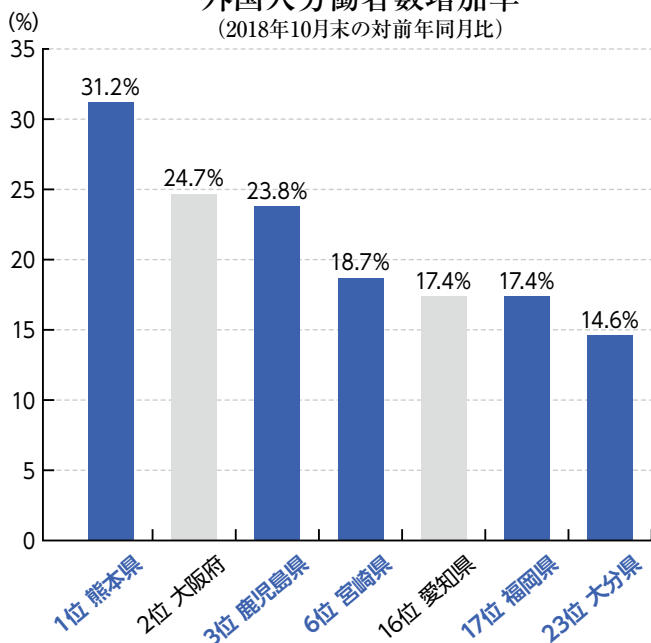
外国人労働者数増加率

少子高齢化の影響で15歳から65歳までの生産年齢人口が減少する中、外国人労働者の役割はますます高まっています。厚生労働省によると、2018年10月末時点での外国人労働者の数は全国で146万人となり、届け出が義務化された2007年以降、過去最多を更新しました。2008年には約49万人であったことから、この10年で約3倍に増えた計算になります。そこで都道府県別に外国人労働者数の増加率（前年同月比）を見てみると、熊本県（31.2%）が第1位で、鹿児島県（23.8%）が大阪府に次ぐ第3位となっています。

熊本県では、熊本地震の復興現場を支える技能実習生をはじめ、農業分野での受け入れが広がっています。

外国人労働者数の上位は東京、愛知、大阪など大都市圏に集中しています。地方で受け入れた外国人労働力が、より賃金水準の高い大都市圏に移る動きもあり、物価の安さや暮らし易さなど、地方ならではの良さをアピールして定着を図ることが必要になっていきます。

外国人労働者数増加率
(2018年10月末の対前年同月比)



出所：厚生労働省「外国人雇用状況」を基にFFGビジネスコンサルティング作成